

# 常総市文化協会報

第27号

発行 令和7年(2025)3月13日

(題字：秋葉 アキヲ)

発行責任者 中山 治

## 茨城県議会議員を務めた長塚節の父

# 長塚源次郎



常総市(旧石下町)の生んだ明治の歌人、小説家、長塚節の父である長塚源次郎は、安政5年7月13日に常陸国筑波郡上菅間村の名主青木新平の次男として生まれ、節没後の大正10年9月21日64才で亡くなりました。

長塚家は、節の祖父久右衛門が、商才があり田畑山林の経営のほかに質屋、米穀商として家伝業の販売をして財を成していました。久右衛門には子供が無く、妹が下妻の地主渡辺家に嫁いでおり、その次女のたかを養女として幼い頃から養育していました。その養女たかの婿に、青木家から11年2月に源次郎を迎えました。節の生まれた頃の長塚家は、水田6町6反余、畑15

町9反余を保有した豪農でした。源次郎は、その頃盛んだった自由民権運動に参加し、議員の道を歩みますが、選挙にお金は付きものだったことは、節が父の借金返済のため炭焼きの研究や竹林栽培を行ったことでもわかります。この竹林は、今でも長塚家の周りに残っています。

さて、明治期の茨城県議会議員は、明治12年3月に第1回目の選挙が実施され、第2回を14年1月、第3回を15年8月、第4回が17年4月に19年1月に第5回目、源次郎の初出馬した第6回目の選挙は、21年1月に実施されています。この後、23年2月、25年2月、27年2月と続きますが、当時は半数改選でした。源次郎は、21年に初当選し、29年10月の第11回選挙で落選するまでの間、議員を務めています。その後、一時期議員を辞めていましたが、明治40年9月25日に実施された第15

回選挙で復活しています。源次郎は、40年の選挙で県議員に返り咲くわけですが、この時の選挙に結城郡は、5人が出馬し定員3人の枠を競っています。

源次郎は、989票を獲得してトップ当選、2位は飯村忠七、3位が新井球三郎(石下町長)でした。この議会で、見事第20代議長の座を射止めました。

明治40年11月に結城町に於いて特別大演習が催され天皇陛下が来県されました。陛下が滞在した大本営は、結城尋常高等小学校(現在の結城小学校)で、記念碑があります。この前の11月11日に源次郎は、臨時県会の決議により15日朝大本営に出頭し賀表(国家の慶事に際して、臣下が祝いの気持ちを通じて、天子に奉る文)を捧呈(ささげ持つ)してやうやく差し出すこと)しています。

賀表の最後の部分は、次のとおり「前略 臣源次郎猥りに県会議長の職を汚せるを以つて衆庶(庶民)の熱衷(あつまい)をついまごころを代表し僭越(せんえつ)の罪を顧みず爰に謹て陛下の萬壽無疆(ばんじゅむきやう)をいっまでも長生き

することを願った言葉)を祝し奉る 臣源次郎誠惶誠恐頓首謹言」と締め括っています。

茨城県議会の議長は、明治12年の初代から第98代まで約150年に亘る歴史がありますが、我が常総市から県会議長に就任しているのは、第6代の秋葉庸(旧水海道町・明治19年3月)、第20代の源次郎及び第21代の新井球三郎(旧石下町)と第25代の飯村忠七(旧水海道市)の3名は奇しくも40年の選挙で結城郡選挙区から当選した議員が議長を務めており、その後久しく議長の就任者は無かったが、第98代議長に飯野重男(平成19年1月)氏が就任しています。

(河合 宏)





常総市文化協会には様々な文化芸術分野の団体が加盟しており、新規の加入や見学も受け付けています。会員だよりで紹介された団体は文化協会加盟団体の一部ですので、団体に入ってみたい、こういう団体を探している等の御希望がございましたら事務局までご相談ください。

### 漢詩と和歌

霞風流吟詠映風会

私どもの会は茨城県吟詠剣誌舞総連盟に所属し中国の漢詩、万葉集の和歌の勉強を水海道公民館をお借りして毎週木曜日午後1時半

から3時半まで教室を開いて楽しく時間を過ごしています。

毎年県連より課題が出され漢詩8題和歌8首が解説書付の手本で勉強をしています。特に漢詩は歴史物語又人生の教訓になる詩が多いです。和歌は平安時代より現代の詩人の詩、景色や恋愛の詩などやさしく力づよく美しい心が入った詩が感じとれます。このような詩を吟じたり朗詠したり大きな声で表現し声を出して元気の源と思ひ皆で頑張っています。



### 市民芸能祭

毎年開かれる市民芸能祭に参加をし、舞踊家の方々と「詩吟と舞」又書道家の人達との「書道吟」を披露させて頂いています。本年も神達市長にお願いして大きな書紙に太い文字で書道吟を楽しんでも頂きました。ぜひ皆様少しでも興味があれば教室をのぞいて見てください。

(武藤 良生)

### 「和の心」をつなぐ

常総市茶華道教授会

本会の会員は現在7人おります。会としての主な活動は、市内で催される行事に参加して地域の文化活動に寄与することです。

市の文化祭では、学習センターにて生花展と茶会を開き、今年の来場者は生花展260人、茶会64人と沢山の方を迎えました。お茶席は2階なので目立つ場所ではないのですが、和やかな雰囲気でお抹茶を味わっていただきました。又、あすなるのおひなまつり開催時には、生け花を10日間の長期に展示して、おひなさ

まとお花のコラボ展を催しました。ここでは家族連れの方が多いため、お子様もお茶やお花の伝統文化を楽しんでいます。それから水海道公民館まつりですが、ここでは昨年より生花展と茶会をひとつの部屋で催して、来場者に生け花とお抹茶の両方を同時に楽しんでもらうことができました。

これからもより多くの方に生け花やお抹茶を身近に楽しんでいただくために、私達会員も精進したいと思います。

(大塚 京子)



### 俳句に親しむ

青磁会

多くの先輩達の遺した句

集には俳句に対する意気込み、情熱が感じられ唯々感動するばかりです。

現在の会員は18名で、遠くは札幌、仙台、千葉在住の方もおります。定例会は毎月第3日曜日に市立図書館で行っています。

又令和6年1月から生涯学習課が窓口となり、新たに俳句講座を募集したところ17名の参加があり、毎月第2土曜日に図書館にて青磁会会員の指導で句会を行っています。

「市民文化祭俳句大会」はコロナ禍で4年間休止しましたが、昨年の48回大会は盛大に開催することができ、参加者は27名応募、句数は123句でした。

「長塚節文学賞」俳句部門へ参加し多くの入選者を出しています。

俳句は世界で一番短い言葉の中に花鳥風月を詠み喜怒哀楽を表現する詩です。又人生を豊かにより楽しくするものです。興味のある方は一緒に学んでみませんか。

(代表 草間 亨)

# 令和6年 文化協会視察研修に参加して

6月2日(日) 天候に恵まれ参加総員33名、北海道民謡舞踊連合会から7名参加させて頂きました。朝8時に市本庁市バスにて出発、国立歴史民俗博物館定刻着、佐倉城址公園と名がつくだけあって、広大な敷地施設であり、第1展示室(先史・古代)から第2(中世)、第3(近世)、第4(民族)、第5、第6(現代) 全展示室順番に見学すると日本の歴史をタイムマシンから見ているようでした。さすがに国立歴史博と感服であります。

残りの時間を数人で植物園、庭園と観賞して回り、手入りの行き届いた施設環境に清々しさを感じました。帰路も定刻に出発、そしてバス内の雰囲気も大変良く、楽しい一日でした。次回も是非参加させて頂ければ幸いです。

(北海道民謡舞踊連合会 浜田 隆夫)



# 文化協会会長退任挨拶

常総市文化協会会長の中山です。三期6年の会長職を、この3月一杯で卒業させて頂くことになりました。浅学非才の私を、長期に渡り支えて下さいました役員、会員、市民の皆様にご感謝の気持ちを申し上げます。誠に有り難うございました。この6年の間に、現在もまだ完全に終息していないコロナ疾病が2年間に渡って猛威を振るいました。従って、この間の活動は、文化協会報の上梓のみに限定されて仕舞いました。種々の企画が挙行出来ず、自身を含めて会員各位の心情もまた鬱々とするものがあると思えます。

就任最初の年(令和元年)は、会員研修の企画として、東京藝術大学美術館での藝大新購入美術所蔵品展を見学、2年の

空白の後に、東京国立博物館、更に千葉佐倉の国立歴史民俗博物館を見学し、会員の感性昇華に寄与することが出来、また、共催である(市民文化祭)を、秋の催しとし、文化協会主催の(芸術文化のつどい)を春の催しと規定し、年間2回の市民、会員発表の場として、常総市文化活動興隆の礎として定着出来ましたことは、極めてうれしいことであり有り難いことでありました。

卒業後も老齢にむち打ち、側面から常総市の文化興隆に尽力出来ませうと存じております。若い方々の協会参加もあり、更なる発展へのご協力をお約束し、退任のご挨拶と致します。有り難うございました。

(中山 治)



常総市芸術文化のつどい

令和6年6月13日～16日



令和6年度

市民文化祭

令和6年10月26日  
11月4日



# ぴる PEOPLE

人物  
Special  
People

## 「本堂 追想」

寿亀山天樹院弘経寺 主管 金田 大祐さん



今号では飯沼弘経寺の金田住職を紹介させていただきます。年末年始の忙しい中での取材がむずかしく、今回は金田さんに寄稿していただいたものを掲載させていただきました。金田さんは陶工としての顔も持ち、中山文化協会会長主催による「北海道造形美術展」などにも作品を出展されています。

2006年9月に、ここ飯沼の弘経寺に赴任して以来、18年が経ちました。この18年間、常総市の皆様には弘経寺を通して一方ならぬお世話をいただき、心より御礼申し上げます。

弘経寺は応永21年(1414)に嘆誉良肇上人によって開山され

た浄土宗の古刹(こせきつ)です。その600年余りの歴史の中に千姫様が登場するのは弘経寺開山から約200年後(千姫様の祖父徳川家康公が天下統一を果たした後)です。姫路城を去るまでに筆舌(ひつじょう)に尽くし難い苦難を経験した千姫様は江戸城へ移った際、弘経寺十世であった照誉了学上人より浄土宗の戒(かい)を授かり、お念仏の教えによって苦しみ淵から救われたと伝えられています。千姫様は戒を授かった後、弘経寺を菩提寺と定めますが、当時弘経寺は戦火によって本堂をはじめとした諸堂宇(しよどうう)を焼失しており、この現実

に心を痛めた千姫様は本堂の再建を発願します。寛永6年(1629)に千姫様の誓願は



天樹祭での千姫さまと金田住職

本堂建立という形で成就されます。私が弘経寺に赴任したばかりの頃の本堂は、改修工事を施さなければ伽藍(がらん)としての役割を果たせないほど老朽化しておりました。千姫様が再建して以来400年もの間、風雪に耐えてきた弘経寺本堂はその歴史が積み重ねてきた崇高な風格を纏(まと)っていました。解体をしなければならぬという現実とこの美しい本堂を残したいという個人的な願いと狭間で大変つらい日々を過ごしていた中、たまたま弘経寺を訪ねて来られた東京藝術大学取手校の彫刻家の友人たちより「解体が不可避なら、一人でも多くの方々に千姫様の本堂を拝観していただくため、弘経寺境内で美術展を企画してみはどうだろうか?」との妙案を賜り、400年前の本堂の姿を永遠に記憶していただくために、出展する作家全員が一丸となって開催したところ、1万人以上の参拝客を得て「弘経寺展」は成功裏に幕を閉じました。私は陶器を出展させていたのですが、美術作品と旧本堂の調和は「永遠の記憶」となって、まさに弘経寺の歴史に刻まれたのでした。



金田さんの陶芸作品

「磨かれた技と新しい創作のどちらかが欠けても陶芸作品にはならない」と陶工であった父はよく私に諭してくれました。これは作陶に限らず、仏道にも当てはまるところがあります。陶工としても僧侶としてもまだまだ半人前ですが、今後とも常総市の皆様にご指導を賜りながら、精進して参りたいと思います。

金田さんは現在も音楽や陶芸など様々な芸術家に境内を提供し、演奏会や作品展示会などの開催にも尽力されており、芸術家としての一面も見られます。今後も益々ご活躍されますことを祈念しております。

(小田部芳美)

# 常総市の歴史

## 常総地方の交通 常総線

河合 宏

近年、全国各地で昔から親しまれてきた鉄道路線が廃線となったり、昨年来JRでも不採算路線の廃止又はバス路線等への転換も検討されています。鉄道路線は、古くから地域に密着した交通手段として親しまれて来たはずですが、車社会の現在では、主に学生の通学としての交通手段であり、また都市部への転居等により利用客の減少が会社経営を圧迫しているのでしょうか。

さて、常総市の生んだ明治の歌人・小説家の長塚節は、全国各地を旅したことで知られていますが、当時の常総地方の交通に関して、福島の人門間春雄宛書簡（大正2年1月22日付）に、「国生の私の家に遊びに来る場合には、上野駅を7時5分発の青森線に乗ると小山駅に9時46分に着く。水戸線的小山発が10時46分、下館駅に11時20分に着く。昼食は、下館駅近くの旅館で摂っても良いが、水戸線の発車時間まで1時間あるので、小山駅で摂るか弁当を求めて下館迄の車中30分の時間に摂ると良い。下館から下妻町まで4里、下妻町から国生村まで2里なので、私

の家には3時頃までには着く筈である。下妻町より1里にて鬼怒川の沿岸に出て、暫く土手を伝って若宮戸より皆業（下妻市）を渡ると半里に遠からず。下館から下妻までは、乗合馬車で30銭、人力車で60銭から65銭であり、それ以上の金額を言われたら叱って下さい。いずれにしろ下妻から人力車が一番宜しい。2里の道であるが、渡船場から降雨の折には非常に悪路になり45銭から50銭位言われることもある。私の住む国生は『コクシヨウ』でなく、『コクシヤヨウ』であるので、人力車の車夫に言えば車夫は心得ているので大丈夫。」と節らしい書簡です。

節が、東京で病氣治療や正岡子規宅などへ出掛ける当時の交通手段としては、書簡にあるような徒歩等による下妻・下館を経て水戸線・東北線または、国生から取手まで徒歩等で取手を経て常磐線の鉄道を利用する手段、そして境町から利根川、江戸川を経て伊藤左千夫の住んでいた錦糸町近くまで行く水運による交通手段がありました。

当時、鉄道院に勤務していた従兄であり水戸中学同級生の渡辺綱三が調達してくれる優待乗車券を使うことで、経費節約も出来て全国各地へと広がっていききました。

### 取手と下館を結んだ常総線

県南を走る常磐線（明治29年12月田

端く土浦間開業）の取手駅と県西を走る水戸線（明治22年1月小山く水戸間開業）の下館駅を結んでいる現在の関東鉄道常総線は、水運の衰退が見込まれ始めた明治29年に常磐線が開通して、鉄道施設運動が始まった事で計画されました。常総線という路線名は、屢々（しばしば）用いられ、明治30年頃までに幾つもの計画が在りましたが、中々実現されませんでした。日露戦争後の明治44年11月に常総軽便鉄道株式会社に免許交付されました。設立発起人には、東京の茨城無煙炭社長の竹内綱を代表に沿線町村から47名がなり、水海道町から7名、石下町から8名が名を連ねています。明治45年6月9日、東京有楽町に本社を水海道に支店を置き常総鉄道として設立されました。

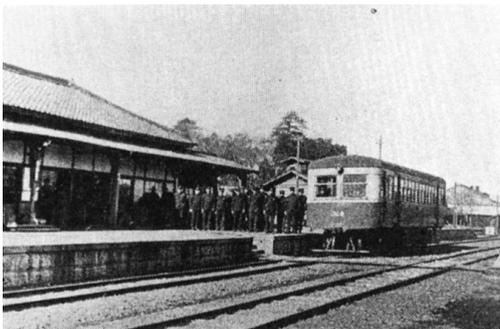
大正2年2月11日に着工し順調に進み、10月には取手下館間51・6km全線が一气に完成し、11月1日営業を開始し23日に水海道町において開通式が行われました。開業当初は一日6往復で、蒸気機関車の牽引により客車は2両連結貨車と一緒に客貨車混合運転でした。取手く水海道22銭、取手く下館64銭。水海道から東京まで、蒸気船で行きか8時間、帰りが14時間掛かっていたものが、取手経由の鉄道では実質乗車時間2時間30分で行けるようになったといえます。

節は、病氣治療のため大正3年に九州に出掛け、大正4年2月8日に没していますので、常総線の開通により常磐線を利用した期間は、僅かだったことでしょう。

昭和3年8月には、蒸気機関車に加えてガソリン動車が2両導入され、スピードアップと輸送力の向上になったといいますが、第二次世界大戦中にガソリンの消費規制があり代用燃料での運転を余儀なくされました。

常総線はその後、昭和20年に筑波鉄道と合併し「常総筑波鉄道」として運営が続いていました。昭和40年、常総筑波鉄道と鹿島参宮鉄道が合併し「関東鉄道」が誕生しました。

現在、常総線は、取手・水海道間の複線化やワンマン運転等になっていますが、水戸線・つくばエクスプレス・常磐線を結ぶ地域の交通として永遠に存続していただきたいものです。



▲常総鉄道の大型ガソリン動車 (常総鉄道(株)30年史)

市内 小中学校 吹奏楽部紹介  
高等学校 吹奏楽部紹介

### 水海道西中学校吹奏楽部

令和6年度の本校吹奏楽部は、153年生44名で、「響け、44人の海西サウンド！届け全ての人の心に！聴いてくださる全てのみなさまに感動を！」を合い言葉に、日々活動をしています。

コロナ禍における音楽的活動の制限も緩和され、通常の音楽科の学習でも、合唱やリーダーの活動がコロナ禍前と同様にできるようになりました。それに伴い、吹奏楽部の活動も、コロナ禍前と同様に思い切り楽器を演奏できるようにになりました。もう一度、基礎基本を見直そうと、部員相互で話し合い、練習の方法を見直しながら、個人での基礎練習や、全体での基礎合奏に力を入れ、演奏力の向上に努めています。こうした努力の結果、茨城県のアンサンブルコンテストにおいて、県代表となり東関東大会に出場できるまでに成長しました。東関東大会出場は、本校吹奏楽部とし



ては、平成27年度以来9年ぶりの快挙となります。演奏会やコンクールなど演奏の機会も増え、演奏後にいただく温かな拍手は大きな励みとなっています。演奏を通して仲間と築いていく絆や信頼関係は、生徒一人一人の人間形成において大きな力となっています。これからも生徒一人一人の成長、そして生涯に渡って音楽を愛好していく心情的育成をめざして活動をしていきたいと思えます。応援よろしくお願いたします。(吹奏楽部顧問 木村公一)

### 文芸 水海道地方短歌会

- ストープにさつま芋のせ一時間ほくほく甘いおやつが出来た  
秋田タケ子
- 仔猫来て思い出したる子育てを川の字に寝る傘寿の夫婦  
秋山 恵子
- ウクライナの娘の歌声はうるわしく平和を願う想いはひとつ  
石川 栄子
- オナモミに食い付かれながら這って下り小貝川土面やわらかに踏む  
入山 利子
- 我が母は黒髪混ざり白寿なり杖もつかずに日々を過しぬ  
斉藤 和枝
- たまきはる命受けたる九十五歳感謝の心常に思ひぬ  
佐藤 貞子
- 里山に秋の七草さがそうよそつと咲いてる萩女郎花  
鈴木しげ美
- 日の丸の日本のシンボルあらためてホレホレとする五輪会場  
宅間 洋子
- 千姫の祭賑わう水海道栄えし頃の街並思う  
永瀬 貞子
- 色づいて燃ゆる紅や黄楓の葉秋を彩る良き景色かな  
中村加津子
- 「じいじい」とひ孫は写真に言葉かけあの世とこの世溶け合うように  
古矢 俊子
- したためる一筆箋は遠き日の歌の友から戴きしもの  
松崎マサ子
- この暑さ人類の危機と思うかな戦争などはいますぐやめねば  
山口 二雄
- 倒れても這いつくばって根を生やしコスモスの花凜と咲きをり  
横関 くに

### 編集後記

かつて、現在の常総市は常総地方における文化の中心地でした。常総地方の学問はここを起源とし、文芸もまたこの地に根ざりました。また、商業殷賑の地であり、従って豪商富家が軒を並べてその繁栄を競いました。それらのなかには心を学問に寄せる者も居りましたし、文芸に志す者も居りました。そうした人びとによって培われた当地は、他の地方に比べてはるかに文化的水準が高かったのです。この地は富において優れていたと同時に、その富を利用して西洋文化吸収上にも大きな力を有していたのを誇ってもいいでしょう。今年度も「芸術文化のつどい」の開催をはじめとして「視察研修」「市民文化祭」「文化協会報発行」と、無事に事業を終えることができました。来年度もさらなる向上を目指し、取り組んで参りたいと考えております。(小田部芳美)

#### 事務局

常総市教育委員会

生涯学習課(石下庁舎内)

常総市新石下4310-1

電話

0297-30-8880

FAX

0297-44-7646